

各グループの紹介

きかく 企画部

ジュニア編集局の記事の企画編集を行っているのが企画部です。編集長ほか記者6名+大人スタッフで常時フルパワーでがんばっています。企画するだけでなく、もちろん自分たちでも取材して記事を書きます。今回のトップ記事「つづきの七不思議」は、企画部が「都筑七不思議調査団」を結成して、調査と取材を行い、まとめたものです。

青野 瞳子	中川西小5年
門脇 ひかる	横浜国大附属横浜中3年
神尾 真美	桜蔭学園中3年
木村 枝里香	中川西中1年
栗原 里実	日本工大駒場高1年
須栗 優奈	荏田南中3年
西松 美和	中川西中1年



文化部

文化部は、地域(いき)のイベントが大好きな女子チームです。いろいろなイベントを楽しんだり、講座(こうざ)を体験したりして取材を行っています。文化部では、取材できるイベントを募集中です!こんなイベントや講座を紹介してほしいという方は、ぜひご連絡ください。よろしくお祈りします。

石井 真央	東山田中2年
下川 紗季	北山田小6年
田中 真穂	茅ヶ崎小5年
永野 萌	南山田小5年
西倉 あや音	東山田小5年
矢野 淳奈	子母口小6年
吉田 裕子	茅ヶ崎小5年



社会部

女子2人、男子7人で活動する社会部は、ジュニア編集局の中でも、社会問題?を扱(あつか)ういちばん過酷(かく)な取材や調査をしています。公園のトイレ調査では、まわりの人にあやしい人と間違われたり。だがし屋を探して、行き止まりの道で迷子(まいご)になるなどの事件もありました。これからままのコアな取材を続けていきます。

飯田 修平	東山田小6年
大河原 ひなた	川和東小6年
大谷 美咲	中川西小5年
門脇 慧	横浜国大附属横浜中1年
栗原 大知	都田中2年
黒山 幹太	日大三中2年
関 将吾	川和東小6年
福永 圭吾	新吉田第二小5年
百崎 佑	中川西小5年



ジュニア記者となって活躍してみませんか?

つづきジュニア編集局では、来年度に向けて編集(へんしゅう)委員や特派(とくは)員を募集します。

つづきジュニア編集局 編集委員募集

小学4年~高校生までで、都筑区周辺の方(編集会議や取材が都筑区内となります)で、毎月約1回の会議に出席できて、取材や講座(こうざ)にも積極的に参加できる人。

つづきジュニア編集局 特派員募集

小学4年~高校生までで、特に地域(いき)は問いませんが、年に数回の講座や全体会議に出席できる人。特派員には、自分の地域のニュースを取材して、メール等で送ってもらいます。それを、子どもたちの編集部が編集してブログ等にアップします。

☆編集委員、特派員いずれも、パソコンでのメールの送受信ができる人(保護(ほご)者が代行してもかまいません。携帯(けいたい)メールは不可)。保険(ほけん)料を含め登録に年間500円かかります。(取材のときの交通費や飲食代は自己負担(ふたん)となります。)

☆活動は2011年5月にスタートします。編集委員の締め切りは4月10日までです。編集委員は、年度の途中からの参加はできません。

ジュニア記者になるといろいろな体験ができます。年齢(れい)も学校も違う友だちができます!ぜひ応募(おうぼ)してみてください。(応募者多数の場合、編集委員は学年ごとに分けて抽選(ちゅうせん)します。特派員は全員登録できます。)

申し込みは minicityplus@gmail.com まで。

ジュニア記者と一緒に活動して...

子どもたちは、取材活動を重ねる度に記者としての成長を感じ、活動への積極性や仲間への思いやりなど、人としての成長もたくさん見せてくれました。

私たちにとって、個性豊かなジュニア記者の皆さんと交流できたことは、中学生を送る中で貴重な体験になりました。

ジュニア編集局の皆さんには、取材活動のほかに区役所のイベントのお手伝いをしてもらったことでもあります。その働きぶりはキビキビして見事、大人のボランティアさんも驚(おどろ)いていました。

フィールドがあれば、子どもたちの自主性や積極性は際限(さいげん)なく発揮(はつき)されるということを目の当たりにしました。

子どもたちが地域で次にどのような活躍(かくわ)をしてくれるのか、楽しみです。

東京都立環境情報学部中村研究室学生一同

都筑区役所地域振興課区民活動係



ジュニア記者の七つ道具

- ・**名刺**: 全員、自分の名刺を持っています。取材するときには名刺を出して名前を名乗ってあいさつします。
- ・**筆記用具**: 取材中は必ずメモを取ります。小学生はもちろん鉛筆を使います。
- ・**デジカメ**: 記事には写真も必須です。ケータイのカメラを使うこともあります。
- ・**NOTA**(<http://nota.jp>): 全員、NOTAに自分のページを持っています。原稿や写真のアップにも利用しています。
- ・**パソコン**: NOTAに原稿や写真をアップするときなどに使います。
- ・**水筒**: 真夏の取材には欠かせません。長い夏休みは、あちこちに取材に行くチャンスです。
- ・**ハート**: 「知りたい!」「体験したい!」「なぜ?」と思う心が一番大事です。

七つ目の不思議は、きっとあなたの身の回りにひそんでいます。探してみてください。秘密がみつかったら、ぜひジュニア編集局に連絡ください。お待ちしております。

第2号 2011(平成23)年3月発行
 編集 つづきジュニア編集局(事務局 NPO法人ミニシティ・プラス)
 発行 NPO法人ミニシティ・プラス
<http://minicity-plus.jp> (e-mail: minicityplus@gmail.com)
 横浜市都筑区役所地域振興課
 東京都立環境情報学部中村研究室



ジュニア編集局のホームページ(ブログ): <http://webtown-yokohama.com/junior/>

「TJ Times」は、「つづきジュニア編集局」の広報紙です。

ぼくたち、わたしたちの未来、勉強中です!!

「つづきジュニア編集局」は、横浜開港150周年・都筑区制15周年の節目にあたる平成21年に始動し、2年目が終了しようとしています。小学5年~高校生までのジュニア記者が、子どもの目線と力をフルに活かして、都筑の魅力を取材して、記事を書いています。日々の発信はブログで行っています。NPO法人ミニシティ・プラスが中心になり、東京都立大学、都筑区役所が協働で子どもたちの活動をサポートしています。ジュニア記者たちの活躍にご期待ください。



Y2(ワイワイ) サポートプロジェクトは、「つづきジュニア編集局」を応援しています。

Y2サポートプロジェクトって?

横浜市(Y)+読売新聞(Y)でワイワイです。みんなと一緒に街を盛り上げるための協力活動で、読売新聞はみんなの街をより良くします!!

調査記録ファイル1

トトロの出現する歩道橋

つづきジュニア編集局企画(きかく)部では、都筑区の不思議なものを取り上げ、「七不思議」として調査(ちょうさ)しています。今回は区役所通りの歩道橋に出現(しゅつげん)する「トトロ」を取材しました。私たちはある夜、区役(やく)所前の歩道橋から「トトロ」の撮影(さつえい)に成功(せいこう)しました。歩道橋からセンター北方向を見ると、街灯(げんとう)がつながって、ジブリ作品「となりのトトロ」で有名なあのトトロのシルエットに見える、というものです。設計(せつけい)のときに電灯(でんとう)をネコの耳(みみ)のような形に配置(ちやうそ)したというお話(おはなし)も聞きました。みなさんもぜひトトロに逢(あ)いに行ってください。



調査記録ファイル2

成(いぬ)だけがなぜ見つからない十二支(じふにし)の石

センター北駅と北山田駅の間にある緑道に点々と置かれている石には、干支(えと)の動物の名前が彫(う)られていて、計12個ある…はずなのですが、なぜか成(いぬ)だけがなかなか見つかりません。この不思議な石たち、実は、子どもたちの待ち合わせに使(つか)ってほしいという思いで作られたそうです。通りがかった子どもたちやお母さん方に聞き込み調査(きこみさつさ)をした



結果(けつこ)では、待ち合わせにはあまり使(つか)われていないようでしたが、地域(まち)になじんでいるオブジェ(オブジェ)であることがわかりました。みなさんも十二支(じふにし)の石を巡(めぐ)るウォーキング(ウォーキング)をしてみたいかでしょう。年賀状(ねがはじょう)用に、その年の干支(えと)の石の前で家族(かぞ)で写真を撮(と)るのもおすすめです。

調査記録ファイル3

まもるくん生誕(たんじょう)の秘密

都筑まもるくんは、都筑区(つづき)の交通安全(あんぜん)のシンボルとして2005年にセンター南(みなみ)から歴史博物館(れきし)館(くわん)脇(わき)に交差点(こうさつてん)に引越(ひきこ)してきました。まもるくんは身長(身長)7m・体重(体重)1t、両足(りょうあし)の重り(おもり)も入れると3tにもなります。元々(もと)は旭(あさひ)区(く)にあったテーマパーク「恐竜(きょうりゅう)の森(もり)」にいました。そこが閉(へい)園(えん)になり捨(す)てられそうになったところを交通安全協会(こうえん)に引き取(と)られ、協会(こうえん)のあった川(かわ)和(わ)にいました。次に郵(ゆう)便(びん)貯(ち)金(きん)センター(センター)や水道局(すいどう)横(よこ)に移(い)動(どう)し、そして現在(げんざい)の場所(ばしょ)と4度(ど)も引越(ひきこ)しました。都筑区(つづき)にはまもるくんをモチーフ(モチーフ)にしたパンやお菓子(かし)もあり、まもるくんの知名度(しやうめいど)の高(たか)さがわかります。



七つ目は…この新聞のどこかに書いてあるよ。探してね!

調査記録ファイル6

都筑(つづき)に棲(す)む妖怪

妖怪辞典(やかい)に『都筑区(つづき)川和町(かわわ)に「あずきばあ」がいる』と書いてあったので、川和(かわわ)に70年(ねん)住(す)んでいる人に聞いてみると「あずき婆(ば)は見たことないが昔(むかし)は庭(にわ)で育てたあずきを川(かわ)で洗(わ)っていた人はいた」とのこと。さらに調べると「鶴見川(つるみ)妖(ま)怪(かい)会(かい)」という団体が鶴見川(つるみ)流域(りゅういき)を中心に妖怪(やかい)の研究(けんぎゅう)をしていたと聞き、メンバーの吉田洋子(よしの)さんにお話を伺(き)いました。会(かい)では、妖怪(やかい)の棲(す)んでいそうな所(ところ)を歩いて地図(ちず)を作(つく)っていたそうです。妖怪(やかい)は人が入(い)ってはいけない場(ば)場、森(もり)や林(はやし)や湿地(しつち)帯(たい)に棲(す)むと考え(かんが)られているそうです。妖怪(やかい)にあうには一人(ひとり)でする場(ば)に行(い)くことが重要(じゅうよう)だとか…。でも会のメンバーもまだ一度(いちど)も本物(ほんぶつ)を見ていません。最近(さいきん)森(もり)や林(はやし)が切り倒(きりた)されて妖怪(やかい)が棲(す)めるような場所(ばしょ)がどんどん減(へ)っています。私たちは昔(むかし)のまま残(のこ)っている「手(て)を加(か)えない自然(しぜん)」を残(のこ)していくために何が(なに)できるか、考(かんが)えていく必要がある(ひつた)と思います。

調査記録ファイル5

「テクノゾーン入口」ってなんの入口?

つづきジュニア編集局の会議(かいぎ)で地図(ちず)をみていて「テクノゾーン入口」という交差点(こうさつてん)を見つけ、テクノゾーンってなに?と疑問(ぎもん)を持ちました。周辺(しゅうへん)を歩いて調べてみると、近くに「新横浜(しんよこはま)テクノゾーン協同組合(きょうどうくみあ)」を発見(はつげん)しました。さっそく取材(しゆざい)を申し込み、栗屋(くりや)野(の)理事長(りやうじ)さんと森(もり)事務局(じむきょ)長(ちやう)さんにお話を聞(き)きました。この「テクノゾーン」とは、市営(しやうえい)地下鉄(ちかてつ)新横浜(しんよこはま)-あざみ野(の)間の延長(えんじやう)、宮内(みやうち)新横浜(しんよこはま)道路(だうろ)計画(けい画)により移(うつ)転(てん)することになった企業(きやう)が川向(かわむか)町(まち)に移(うつ)ってスタートした異業種(いぎやうしゆ)組合(くみあ)の名前(なまえ)です。現在は42社(しゃ)で構成(けいせい)されています。「テクノゾーン」とは、ものづくりをする企業(きやう)の集団(しゆたい)です。ここでは技術(ぎゆ)をもった職人(しやくじん)さんがたくさん働(はたら)いています。

